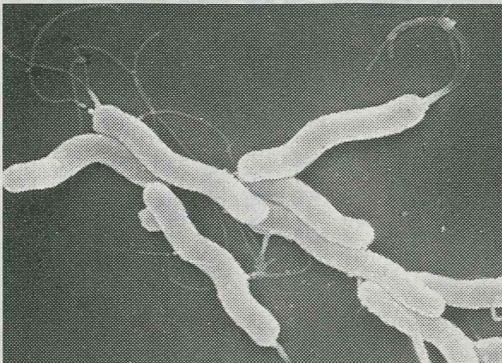
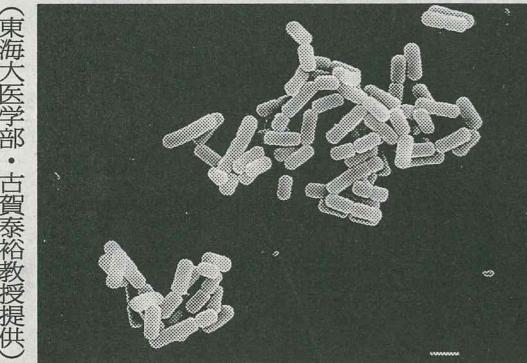
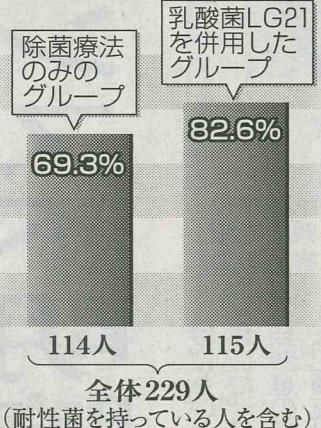


LG21

ピロリ菌



### 3剤除菌療法による除菌率



### 抗菌薬を効きやすく

乳酸菌 LG21



高木教授

現在、ピロリ菌の除菌に使われているのは、胃酸の分泌を抑える薬と二つの抗菌薬の計3種で、これを1週間続けて服用する。

「問題は、除菌に使われる抗菌薬の一つ、クラリスロマイシンに耐性があるピロリ菌が3割ぐらいいる」と。その分、除菌率が落ちて年間5万人も亡くなっているのが乳酸菌「LG21」だ。

既にヨーグルト製品として2000年に発売されており、ピロリ菌の活動を抑制する働きがあるとして人気を集めてきた。ただ薬ではないので、食べるだけで

は除菌まではいかない。高木教授は東京薬科大との共同研究で、229人を対象に、除菌の際にLG21ヨーグルトを併用する効果を調べてみた。

LG21を併用する場合、1日2個を除菌前3週間と除菌中の1週間に計4週間食べてもらった。全体を無作為に2群に分けた結果、LG21を食べた結果、LG21を食べたグループは82.6%と明らかに除菌率が上がった。このうち、耐性菌を持つ51人の比較では、除菌率は

### クリック

**LG21の発見経緯** ピロリ菌が発見された後、日本では、ピロリ菌の働きを調べるモデル動物を開発しようと、マウスにピロリ菌を大量に飲ませたが、胃に定着(感染)しなかった。ところが完全に無菌のマウスの胃にはピロリ菌が感染することに東海大医学部の古賀泰裕教授(感染症学)が気付き、詳しく調べたところ、感染しないマウスの中には乳酸菌がいるためと判明した。さらに、感染した無菌マウスに乳酸菌を与えると、ピロリ菌が排除されることが分かり、乳酸菌の有用性が確認された。より効果のある乳酸菌の菌株を探した結果、LG21が見つかった。

LG21を食べたグループは38.5%と低かつたが、た。人数が少なかつたため統計的差は出なかつたといふ。耐性菌でない137人では、LG21なしのグループが85.6%に対し、LG21を摂取したグループは92.8%と、除菌率は双方とも高かつた。

(東海大医学部・古賀泰裕教授提供)

かつて日本人男性のがん死亡者数のトップを占めた胃がん。肺がんが増加したため、1990年代に2位になったが、発症者数では依然として最も多い。その胃がんの主な原因がヘリコバクター・ピロリ(ピ

ロリ菌)の感染だったことが判明。日本人は中高年の感染者が多く、60代以降は8割以上が感染しているとされる。しかし、胃の除菌により、ピロリ菌感染を原因とする胃がんの予防が可能になってきた。

# ピロリ菌除菌 胃がん予防

## 発症者の95%が感染 若い世代 大きな効果

「胃がん撲滅計画」を提唱しているのは北海道大医学部の浅香正博教授(がん予防内科)だ。

「胃がんの原因は、日本は95%以上がピロリ菌感染

といふデータが昨年発表された。つまり胃がんはほとんどピロリ菌が原因と確認されたといふこと」と浅香教授は指摘する。

感染によって生じるがん

は肝臓がんと子宮頸がん

は国のがん対策が取られていが、胃がんは何もさ

れていない。40年にわたつて年間5万人も亡くなつて

いるのに。このままでは高齢化も進むので死亡者数は減らない。除菌で予防できる可能性が高いのだから、国は対策に乗り出すべきだ

現在、ピロリ菌除菌に保険が利くのは、胃潰瘍や十二指腸潰瘍など限られた疾患だけだ。

胃がん撲滅計画は、50歳以上を対象に、ピロリ菌検査と同時に胃の萎縮を調べるペプシノゲン検査を実施するというもので、いずれも血液の検査だ。二つ合わせて「ABC検査」と呼ばれる。

検査結果の組み合わせ

政策が期待できるようにな

る。何もしないと2020年には5千億円を超える予防内閣だ。

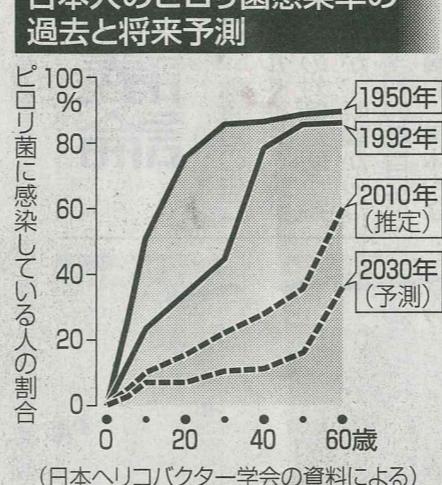
しかし最近、ピロリ菌の人が加わることになる。

は、肝臓がんと子宮頸がんが、これに細菌感染の胃がんが加わることになる。

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、胃がん予防内閣だ。

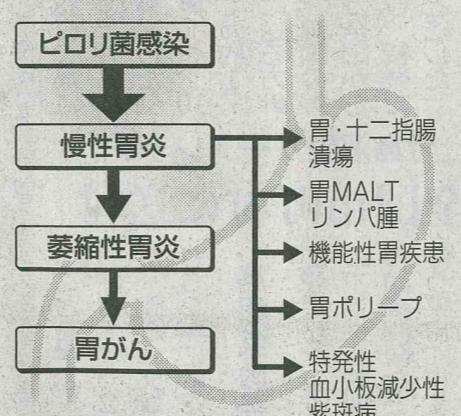
「胃がん撲滅計画」が知られている。これらはウイルス感染によるものだが、これに細菌感染の胃がんが加わることになる。

日本人のピロリ菌感染率の過去と将来予測



「除菌療法を受けるのは早ければ早いほどいい」と話す浅香教授

### ピロリ菌感染で起こるさまざまな疾患



浅香教授は「若い世代で早めに除菌できれば100%胃がんを抑制できる。50代では男性で約7割、女性で9割抑制するが、60代では男性能は半分ほどになる。従って、除菌療法を受けるのは早ければ早いほどいい。50代以上では除菌だけでは胃がんの発生を予防することが難しいので、除菌後も定期的な検診が必要だということを強調しておきたい」と話している。

「ピロリ菌に感染する」と定期的な内視鏡検査をする人などに分かれ、胃がん予防に生かせる。

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

しかし最近、ピロリ菌の人が加わることになる。

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」

現在の胃がんの医療費は年間3千億円と推定され、何もない2020年には5千億円を超える可能性がある」